

# 「アースキーパークリスタルPochan」と 144000の光の魂を持つ仲間たち

第8回

アースキーパークリスタル協会 会長 小川雅弘



おがわ まさひろ

1960年、高知県高知市に生まれる。立教大学を卒業後、石油会社を経て、運輸事業や株式会社クリークファーム地域研究所代表を務める。その他、NPO法人の活動や、地域の発展に尽力する一方で、アースキーパークリスタル協会会長を務める。理想郷を築くという夢を実現するため、講演会活動なども活発におこなっている。

事務局 〒780-0053 高知県高知市駅前町4-10 株式会社クリーク内  
FAX: 088-826-6016  
e-mail: info@earthkeepercrystal.com

## 『六角堂』の光の三原色

『六角堂』には、光の三原色を構成する

ものが何故か3種類あります。

1つ目は、床に埋め込んだクリスタルボールに3本の水晶を天上に向けておい



ら「白・青・赤・緑の四色の中から色を選んでください。」と言われたので何故か青・赤・緑の三色を選んでしまいました。

2つ目は、Pちゃんが呼んできた、通称「黄門様」「助さん」「角さん」の3つの水晶たちです。この水晶たちは、前編で書か

てあり、その3本の水晶の下に三色のLEDライトを設置しました。

施工の設計士さんか

せてもらいましたが、『六角堂』の北・東・西の隅に置かれるためにブラジルからやってきたトルマリリンが水晶にくっ付いた不思議な石たちです。この石が、「黄門様」は青、「助さん」は赤で、「角さん」は緑と三原色になっています。

3つ目は、『六角堂』の建っている敷地の敷石が、青・赤・緑の高知県産の碎石で敷き詰められています。この三色の配合が何故か気になるのでインターネットで調べてみると、青・赤・緑の三色の色を混ぜ合わせるにつれて、色が明るくなり（光のエネ ルギーが加算される）それを「加法混色」といい、三色の色を加えていくと白になり

ます。光の場合にはこの3つの色を使うと、ほぼすべての色が再現でき、この3つの色を「光の三原色」と言うようです。この光の三原色が3パターン配置されている『六角堂』は光の柱が建っているのかもしれませんが。

### 『六角堂』のストーンキャップ

『六角堂』は、大地と天との融合です。Pちゃんとイワクラの融合でもあります。『六角堂』の床には、クリスタルボールと3本の水晶が天上に向かって置かれていま

す。天上からは、大きなクリスタルが地上に向けて吊るされています。天と地を繋いでいるのです。それに加えて『六角堂』の屋根の上には、大きなサヌカイトのピラミッドが載っています。

それは、まるでエジプトのピラミッドの頂上にあつたキャップストーンと同じようになっています。このサヌカイトのキャップストーンは、『六角堂』のオープニングイベントでサヌカイトのコンサートを計画した際、そのご挨拶とサヌカイトの石を分けていただこうと思い、サヌカイトの山を所有されているM社長のところへご挨拶に

伺ったときに、社長の机の後ろに置いてあったものです。恐る恐るM社長に同じようなサヌカイトのピラミッドを譲ってもらえないかとお願いすると、そのピラミッドを譲ってくださいました。今、写真のように

『六角堂』の天辺にサヌカイトのピラミッドが輝いています。どうもPちゃんにとつてはこのサヌカイトのキャップストーンが一番重要だったらしく、この石のお陰で大きく成長できるようになり末には、鳳凰のように大きくはばたけるようになるようです。しかし、本当に不思議なご縁で石たちがやってきます。



## 12人が座れる円卓

『六角堂』の中には12人が座れる円卓があります。『六角堂』の建設計画の前に12人の座れる円卓を創りなさいとのメッセージがありました。12人が座れる円卓は、アーサー王の円卓の騎士の伝説などで出てくるものですが、一番気になっているのは、フランク・アルパーの著書『アトランティス』や、旧約聖書によく登場するイスラエルの12部族です。世界中に散らばっているとされる失われし10部族がいつか集まる時があると言われていました。

私たちは未来を創造できます。エドガー・ケイシー氏はこの点を、「小さなパンの種がパン全体を発酵させる」という素朴な言葉で語っています。これは、精神的に調和の取れた一握りの人間が、人類全体の意識を向上させることができるという力強い原則です。

この思想は、「臨界量」の原理ともいわれています。これは、特定の物質が連鎖反応を持続するのに、最低限度必要な量が決

まっっていて、その量が少なすぎると爆発は起こらないけれども、いったん連鎖反応があらわれはじめる境界点、つまり臨界量に達すると、途端に事態は急変し大爆発を起こすということです。

現在世界の人口は、約70億人と言われていいます。そのなかの14万4000人の光の仲間たちが、自覚し、手を結び合うことで、新しい世界への扉が開かれ、地球の意識が大変革を起こすのです。フランク・アルパー氏の言葉で言うなら、14万4000人とは、『約束の地』の『光の仲間たち』であり、『エデンの園』すなわち『理想郷』を実現させることを約束した人たちのことを言います。

『神』への奉仕のために、ここに転生し、才能を提供し、能力を活かして、人類の意識を高めようとする人たちです。初めはみんな、1人でここに降り立ち、1人がほかの1人を見つけ、その2人がほかの2人を見つけ、その4人がほかの4人を見つけ、やがて12人が12人を見つけ、10000倍になる。14万4000人の覚醒した人々が、自分がそのうちの1人であるという宣

言と決心をすることによって、みんなのろうそくは輝き、世界は光となるのです。

14万4000人の出逢うべくして出逢う人たちが出逢うことによって地球は変革していくのです。この12人の円卓に座るべき人は、決まっていると思っています。その12人が一堂に会する時、新しい次元の幕開けが起こるのだと思います。その12人の為にトム・レダーさんのセレナイトの剣と『六角堂』が待っています。